



日本GAP協会の会報誌「MONTHLY-J」が「JGAP+」にリニューアルいたしました。  
JGAPがきっかけとなり、新しい人と人の出会い、新しい農産物の流通、  
新しい農業ビジネスモデルの構築が各地で始まっています。  
「JGAP、そしてその先へ」をテーマに、最前線をお伝えしていきます。

### JGAPとは……

JGAPは、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証です。JGAPは、農場やJA等の生産者団体が活用する農場・団体管理の基準であり、認証制度です。農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の1つです。

## J G A P T O P I C S JGAPトピックス

### 第2回GAP普及大賞が決定

6月末、GAPの普及に貢献した取り組み事例を表彰する第2回GAP普及大賞が決定し、7月18日に東京大学弥生講堂で開催された「GAP Japan 2012」で表彰式が行なわれた。受賞者にはこの1年間の功績をねぎらう拍手が贈られた。

**【受賞事例】**「セブンファーム」と「顔が見える野菜・果物。」のGAP普及の取り組み(流通企業との協業の分野)

**【受賞者】**(株)イトーヨーカ堂と(株)セブンファーム

**【受賞理由】**生産側と小売・流通側の共通理解のもと、高い安全性を確保するために積極的にGAPを活用し、生販一体となって安全な農産物の生産・流通に取り組んでいる点を高く評価した。

**【受賞事例】**農業改良普及センターが中心となった北海道・上川管内のGAP普及の取り組み(普及組織によるGAP普及の分野)

**【受賞者】**北海道・上川農業改良普及センターと担当普及指導員 伊與田竜

**【受賞理由】**普及指導員がJAや農業生産法人を指導し、これまで合計15戸のJGAP認証農場を誕生させた。さらに「JGAP導入の手引き」を発刊するなど、都道府県の普及組織によるGAP普及のパイロット的な取り組み事例であることを評価した。

**【受賞事例】**創業113年 肥料商「日の丸産業社」による北海道のJGAP普及(資材関係者によるGAP普及の分野)

**【受賞者】**(株)日の丸産業社と(株)JGAP指導員

**【受賞理由】**社内の営業社員の全員がJGAP指導員の資格を取得し、札幌周辺や十勝地域を中心に12のJGAP認証農場を指導し、また道内でJGAP普及推進研修会を開催するなど、JGAPを活用し強い産地ブランドづくりを支援した点を評価した。



(株)イトーヨーカ堂・恵本芳尚氏。



上川農業改良普及センター・伊與田竜氏。



(株)日の丸産業社・飯田進作社長。

### PB開発展に出展

6月20日～22日、日本GAP協会は東京ビッグサイトで開催されたPB開発展(日本能率協会主催)に出展した。昨今、小売・外食産業では消費者が求める食の安全志向に対応するため、農産物などの生鮮品を直接仕入れて「プライベートブランド(PB)」として販売する動きが高まっている背景を受けて、当協会の出展ブースには多くの小売・外食関係者が訪れ、JGAP認証農場との取り組みについて話し合われた。

### 今月の新規会員ご紹介

- (株)精工(大阪府大阪市・農産物出荷資材、デジタル印刷、フィルム二次加工)……………<http://www.seikou-web.co.jp/>
- (株)堀場製作所(京都府京都市・自動車計測機器、環境用計測機器、科学計測機器等)……………<http://www.horiba.com/jp/>

# 大崎善保

Yoshiyasu Osaki

東京デリカフーズ(株)  
代表取締役社長

## 安全な農場であればこそ 健康的な野菜が育つ(後編)

デリカフーズグループが導入した、野菜の評価基準「デリカスコア」。  
JGAPは野菜の中身に直接関係するものではないに関わらず、  
認証取得農場の野菜は評価が高い傾向にある。それはなぜか。  
先月号に引き続き、大崎善保・東京デリカフーズ(株)代表取締役社長に話を聞いた。

おおさき・よしやす

1971年愛知県生まれ。アパレル会社経営等を経て97年創業者の志に共鳴し25歳で名古屋デリカフーズ(株)に入社。2004年デリカフーズ(株)に転籍。09年東京デリカフーズ(株)社長に就任(デリカフーズ(株)取締役兼任)。日本GAP協会理事も務める。



### 認証取得農場の野菜の中身は概ね「良い」

——デリカスコアの評価項目においてJGAP認証を含む安全の項目が高い割合を占めることが分かりました。では、御社が組織されている「Farm to Wellness倶楽部」に参加している農場はどのぐらいあって、そのうちJGAP認証を取得しているのはどの程度になりますか？

今年の3月現在で会員数は143です。そのうちの65の農場が参加しています。そのうちの2割程度がJGAP認証を取得しています。私も流通側の立場から言えば、取引先のすべての生産者がGAPに取り組んでほしいですから、もう少し増やしていきたいという思いはあります。仕入部門にはJGAP指導員資格を持つ社員もおりますので、日頃から生産者と一緒に農場の安全確保を目指す取り組みを行なっています。経営判断からJGAP認証はあえて取得しないという方針の方はおられますが、それでも全体的に見れば、近年は食の供給者としての責任感が生産者の間で確実に出てきていると実感します。私どもとしては、その生産者の方々の気づきを大事にしながら、さらにJGAPの普及に貢献していきたいと考えています。

——JGAP認証を取得した農場が生産した野菜の中身と、認証を取得していない農場の野菜の中身を比べてみて、お気づきになったことはありますか？

すべてがすべてというわけではありませんが、概してJGAP認証農場の野菜の中身は、認証を取得していない農場よりも優れているケースが多いと思います。GAPとは農産物・農場の安全、生産性に焦点を当てていますから、農産物の中身の良しあしとは特に関係はないはずなのです。しかし、認証を取得している生産者の方々は「生産性を向上させたい」「より品質の高い野菜を作りたい」といったような意識を共通して持っています。その意識が最終的には野菜が本来持っている性質あるいは生理を追求

することにつながり、デリカフーズグループが求める野菜、すなわち、おいしいのはもちろん、抗酸化力が高かったり、硝酸イオン値が低かったりする「健康的な野菜」を生産することができるのではないのでしょうか。JGAP認証と野菜の中身自体は、“方程式”で直接に結び付くようなものではありませんが、少なからず関係はあるといえます。

### 海外進出の道具としても活用できる

——JGAP認証農場との取り組みの中で、何か印象に残ったようなことがあれば教えてください。

以前より取引があった、ある茨城県の認証農場の話です。もともと残留農薬分析や土壌分析なども積極的に行なっており、JGAP認証も自らの意思で取得されました。ただ、生産されている野菜を分析する限り、デリカスコアとして数値化してもそんなに高いといえるものではありませんでした。しかし、3年ぐらいかけて、栽培方法など様々な試行錯誤をしていく、また私どもも様々なアドバイスをさせていただく中で、デリカスコア各項目の数値が順調に伸びていきました。おそらく、これは認証取得をしていることで安全面への配慮がすでにできていることと、野菜の生理に基づいた最適な土作りと栽培技術の向上が実現できた結果と思っています。

——流通業者として、JGAPに寄せる期待をお聞かせください。

当グループの目的は、安全・安心でおいしく、抗酸化力が高いといったような野菜を生産者の方に作っていただき、外食産業に卸していくというものです。JGAP取得農場が私どもの仲間に加わってくださることは力強く感じます。そしてまだ具体的ではありませんが、すでに外食産業が進出し始めているアジアを中心とする海外への展開をも視野に入れていきます。農産物の海外輸出となると、GLOBALGAPと同等性に取り組んでいるJGAP+Gは、必ず強みを発揮するでしょう。デリカフーズグループはJGAP認証農場と一緒に成長していきたいと思っています。

平均寿命のランキングで、2011年に日本は世界一の座から降りることになったそうです。東日本大震災の影響ということで、その災害の大きさに改めて心を痛めます。一方で新しく平均寿命の第一位になったのは香港だったそうです。

2012年3月に香港に行きました。線量計を持って行ったのですが、香港中心部コースウェイで測ったところ0.25  $\mu$ Sv/hでした。私が泊まったホテルの中は0.29  $\mu$ Sv/hと高くなりました。香港は建材由来の放射線だそうです。ちなみに日本では屋外の方が高く、東京は外でも0.15  $\mu$ Sv/h以下が一般的です。福島でも西会津町あたりでは外で0.1  $\mu$ Sv/h以下ですし、放射性物質の通り道になった福島市や伊達市でも室内は0.3  $\mu$ Sv/h以下が大半です。香港は原発の事故とは無関係に、昔から上記のような放射線量です。そこが平均寿命ランキング第1位ということ。この事実から考えると、避難している地域を除けば外部被ばくの心配は薄らぎますね。(武田泰明)

事務局長  
編集後記